

令和  
4 年度

決

算

を

問

う



総括質疑

決算特別委員会

決算特別委員会では、9月25日、26日、27日、28日の4日間、21人の委員が決算全般について質疑を行いました。

令和4年度決算

令和4年度決算で最も気になるのは、物価高騰による区財政への影響である。歳出規模はどの程度拡大したのか。

物価高騰による決算額の増えは、物価高騰等の緊急対策事業費の合計は約75億7千万円である。

この間、区としても様々な対策を実施してきたが、区独自の事業とその金額は。

区立小・中学校給食費の負担軽減や子育て世帯生活応援給付等、計9事業あり、決



立憲・国民・ネット・無所属議員団  
ひやま 隆

算額は9億8千万円余である。それらの事業が区民ニーズを的確に捉えたものだったか、福祉向上に繋がったのかを検証する必要があるのでは。

一定のニーズに対応できなかったと考えている。現在の状況を踏まえ、検討を続ける。

財政指標から見る決算

令和4年度決算は、各種財政指標からも概ね健全な財政状況と言える。その中で、経常収支比率が23区平均を下回り、令和3年度に引き続いて低い数値となった理由は。

分子となる経常経費充当一般財源等の増加に比べ、分母となる歳入経常一般財源等が大幅に増加したためである。

経常収支比率とは、財政構造の弾力性を示し、社会情勢に対応して自由に使える予算の多寡を測定する指標である。昨年度はコロナ禍に加えて物価高騰と、区民生活を取り巻く環境は厳しいものがあった。財政的な融通性が高い中、切実な区民ニーズにどこまで応えられたかが問われていると思うが、区の認識は。

区民ニーズの変化や社会状況を踏まえ、迅速に対応できるよう取り組んでいきたい。



自由民主党議員団  
加藤 たくま

基本計画を無視した区政

事業の企画立案、予算編成時に、中野区の最上位計画である基本計画の成果指標、主な取り組み等がないがしるにされ政策決定したのでは。

基本計画の全ての成果指標と取り組みを結び付けて政策議論をしているわけではないが、基本計画の推進に向けて、企画立案、予算編成を行い政策形成をしている。

地域資源の開発・発信

新庁舎にできる展望ラウンジから、VRで四季の森公園を眺め、中野の歴史の変遷（大屋敷、日本初の公園と解釈できる花見のメッカ桃園中央線の前身の甲武鉄道、陸

有効であり、ふるさと納税の返礼品での可能性を考えたい。

中野区の農業政策

中野区内で生産された朝採れ野菜は、農作物運搬にかかるコストや時間を格段に少なくでき、鮮度が高い野菜を区内で販売できる。区のひとつのブランド商品としては。

中野の朝採れ野菜は、消費者のニーズが一定程度あると考えるが、中野区内に農地があって新鮮な野菜が採れることがあまり知られていない。まずは周知に努めて、ブランド化の可能性や支援の在り方を探っていききたい。



公明党議員団  
小林 ぜんいち

令和4年度決算

債務負担行為は、平成30年から増加し続け、令和4年度末には566億円に膨れ上がっており、一種の借金であると考えられるが、区の見解は。

翌年度予算を縛るもので、特定財源を確実に確保し、負担を抑える必要があると考えており、適切に対応したい。

現在の予算規模の増大や物価高騰で将来負担を考えると、公債費負担比率の10%を下げるべきではないか。

基金と起債をバランスよく活用しており、10%の範囲内で運用していきたい。

令和4年度は、新型コロナウイルス対策を行う年度であったにもかかわらず、歳入歳出は好調で、良好な決算としている。大幅な剰余金を基金に積み上げたことで、財政運営上は健全としているが、基金の当初予算化と剰余金の基金繰り入れは、プロセスの面で大きく異なるものである。当初予算の段階で基金積み立ての予算化を図るべきで、予算の執行

率を十分に踏まえた上で予算編成を行うべきでは。

中野区議会では、

ペーパーレス化等の推進のため、

タブレット型携帯端末等を

使用しています。

がんを患う方から、様相が気になるが、ウィッグ等の購入は経済的に苦しいとの声があった。補助の検討状況は。

都の補助事業の対象でもあり、令和6年度からの事業開始に向け検討している。

地域包括支援センター

相談が多様化し、現状の人数では、事業者も厳しいと考える。体制を見直しては。

2025年問題に対応するため、人員配置基準を含めた見直しや改善を図っていく。